

未来につながる過去と今

国語の授業で「故郷」という作品を読みました。知事となった主人公が20年ぶりに故郷に帰り、村や人々が疲弊している状況に愕然とする様子や、再会を望んでいた友人に「旦那様」と呼ばれてしまって隔絶した悲しみやなどが描かれていました。当時の中国社会の状況から、「希望」がテーマに掲げられ、主人公は若い世代が自分たちのように隔絶しない新しい生活を送れるような社会にしないといけないという考えをもって、話が締めくくられています。

さて、このような話を読むと「実際に今自分たちの社会はどうなのか」という疑問が浮かぶのではないのでしょうか。政治家、議員、行政と聞いても実際に何をしているかピンとこない人もいでしょう。若い人は政治にあまり参加していないといったイメージをもっている人もいそうです。しかし現在、全国初の最年少市長が誕生しています。兵庫県芦屋市の高島峻輔市長です。年齢はなんと26歳。高島市長はハーバード大学時代、自治体を率いる市長の講義で「市民を巻き込んでいく“公聴会”の大切さ」を聞き、「すべてをトップダウンで決めるのではなく、市民が内側にもっている市への愛着を、うまく聞き出して行政に取り込むことで街づくりが円滑に進む」ことを学んだそうです。市長はこう言います。「税金というのは芦屋市なら約9万4000人が加入する解約しづらいサブスクみたいなものです。公的な資金を預かって、行政として実際に起きている課題と向き合いたい。」そして、興味深いのは高島市長の仕事は対話から動き出すところです。就任直後から1対1の面談をセッティングして職員に「本当はやりたいけど、やれていないことはなんですか？」と聞かれたそうです。

さらにあるインタビューでは自身の経験を話されていました。

『高校2年のときから生徒会長をやって...公約に掲げたのが「外に出る」と、「生徒からのアイデアを実現する」だったんです。』当時まだ地域との断絶があった自身の高校で外に意識が向くよう、地域のお祭りのボランティアをしたり小学校で授業をしたりしたそうです。次のように話は続きます。『中学生のころから生徒会に入っていて、その枠組みを使ってやりたいことを実現できた経験があって。それを次の世代にも知ってほしいという気持ちがあったんです。だから、「つなぐ」という言葉をテーマにして、「地域をつなぐ」「歴史をつなぐ」「学校内の生徒をつなぐ」という公約を掲げました。』インタビューが尋ねます。—『「地域と交流しよう」とか、学生時代の自分が言われたら「え、めんどくさ」って思っちゃうような気も...」—(市長)『やってみて面白かった』っていう小さな成功体験をつくれるかが大事だと思ってたんですよ。ゼロイチをやるのは難しいけど、「友だちが何か始めたから乗っかってみる」とか、「乗っかりはしないけど、応援はする」とか。そんな例がいくつかあれば、みんなが生徒会活動に少しでも関われるんじゃないかなって。』このように、対話を続けて実行してきた経験が、行政でも生かされています。

しかし、26歳という若さについて、経験不足だろ、大丈夫？という声もたくさん届いたようです。その心配は当然だし、市長は次のように答えます。「ただ、どういうときでも“未来を語って”いうことをやりつづけよう”って思ってたんで。「芦屋だったらできるんです、だからいっしょにやりませんか」と言いつづけてました。」

別記事では「10万人程度の都市で持続可能な発展のモデルをつくるのが大事だと思うんです。いまの少子高齢化という課題をどう転じていけるか。芦屋で示すことができれば、市民のためにも日本のためにもなる」と未来の展望を語った市長。他の政策も市長自身が人生で出会ったこと

に基づいて考えられていました。それに関して、「僕は「恩送り」っていう言葉をよく使ってるんですが、本当にいろんなことやらせてもらいましたし、その恩を少しでも次の世代に送ればなと。」インタビューは記事で"高島市長が語ってくれたキャリアは「のちの世代のために、新しい道や可能性を切り拓く」という軸にもとづいたもの。"とまとめていました。

まるで、魯迅「故郷」の主人公の希望を体現したかのような話でした。上記の市長の記事やインタビューから思うに、未来のビジョンの大切さ、それをみんなで成し遂げようとする思い、そのために対話から始めることの重要性を感じました。相手のこと、社会のことを知ろうとすることが未来を動かす始まりになると思えば、実は誰しもが簡単にできることが大きな一歩となるのです。

※参照、引用 Forbes JAPAN2023年10月号、新R25 「最年少市長が歩んだ異色キャリアと、取り組みたい未来とは」(取材・文 天野俊吉氏)(公開日2023、5、28)より

学年の先生のつばやき ～今週は新保先生より～

白黒でしか伝えられないのだけれど、葉っぱが黄色にかわり綺麗な色合いになってきています。学校の周りに感じる秋の気配。帰りがけに意識してみてください。

例えば1年後だって、自分が何を望んでいるか、自分でもわからないものです。今頑張っていることが、「将来役に立たない」とか考えるかもしれません。だからといって過去に戻ってやり直したり、未来に先回りして答えを知ることはできません。結局、「今」の連続が未来につながっていくので、「今」を大切に生きること以外、私たちにできることはないのです。それでも一つだけいえることがあります。それは、「今頑張れる人は、未来も頑張れる」ということです。

自然を感じることで、「あの頃こうだったな」とか、「あと半年後はどこにいるのかな」とか、自分を一歩外側から見ている気持ちになれます。気持ちを整理して、さああなたが向かう未来は、どんな未来か考えてみましょう。中学校3年生の秋。「今」を大切にしてください。



<来週の予定>

日	曜	給食	1	2	3	4	5	6	学校行事等
6	月	○	道徳	○	○	○	○	○	全校朝礼、平和学習
7	火	○	○	○	○	○	○	○	
8	水	○	○	○	○	○	—		中教研一斉部会
9	木	○	○	○	○	○	○	授業	ひばりルーム
10	金	○	○	○	○	○	○	授業	ひばりルーム
4	土								

11/6(月) ①道徳 全校朝礼・平和学習(講話) 8:25⇒服装を整え、廊下に整列
※講師の方もいらっしゃる授業です。必ず余裕をもって登校しましょう。

11/ 8(水) 中教研一斉部会のため、給食後下校となります。

11/ 9(木) ⑥授業 11/ 10(金) ⑥授業 …各クラス授業に変更になります。教科は来週
連絡します。

★諸活動の記録記載事項希望申請書…11/ 9(木) 締め切り 提出物は締め切りを厳守しましょう